

【学校教育目標】

本当の生き方を求め “自分の手足を動かし、頭を働かせ、心で感じとる”

【経営の方針】 < 「自己実現に向かう子ども」を育む学校づくり >

多様な全ての子どもが「未来の創り手」であることを私たち大人は自覚する必要があります。学校の枠組みの中に「子どもが選ぶ」という要素を盛り込み、子どもが意思決定をする教育活動を展開することは、一人ひとりの興味・関心・キャリア形成に応じた課題に取り組む機会を提供することにつながります。「その子らしさ」を相互理解する子どもや大人が増えることで「共に生きていく」ための基盤が築かれていきます。本来「学び」とは、その子自身が主体となっていくものです。自分にあった学び方を見出して学ぶ経験や、学び合い助け合っ

【学校づくりの具体策】

多様な学びの場のある学校

子どもが興味をもてる場や表現できる場を増やす

子どもの意思を尊重する学校

「子ども自身が決める」という経験を積めるようにする

人との関わりが生まれる学校

子どもや大人から前向きな声かけ(フィードバック)が伝えられるようにする

○ 40分・20分・60分・80分授業 #柔軟な時間設定と学習活動 #多様な学習アイデア #基礎学力の定着

基本的な1単位時間は40分ですが、20分授業(0.5単位)が加わったことで、多様な時間設定ができるようになりました。実習や体験を伴う学習活動は、40分+40分、40分+20分授業というように内容や子どもの意欲に合わせて弾力的に運用していきます。

20分授業では、短時間で集中しやすいことを生かして、読み書きや算数の習熟を図ったり、自分の得意を伸ばす学習や苦手なところを復習したりする「学習の個別化」を意識して活動を行っています。

教員は、研修や自身の個性・アイデアを生かし、情報端末やクラウドも活用しながら多様な学びを実践していきます。このことが、子どもに「自分に合った学び方を学ぶ」という学習スキルを身につけていくことにつながります。

①積み上げモード

基礎から応用へステップバイステップ、確実に定着



②マイペースモード

同じ目標に向かって、自分のペースで学ぶ線的な学習



③グループモード

意見交換の中で異なる考え方が組み合わさってより良い学びを生み出す



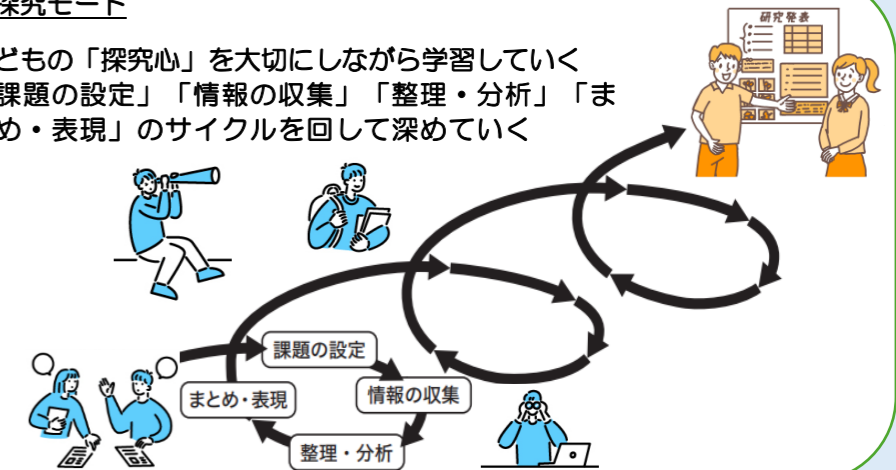
④複線化モード

共通の学習問題に対して、一人ひとりが目的意識をもち追究方法を選択して学習を進める



⑤探究モード

子どもの「探究心」を大切にしながら学習していく「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルを回して深めていく



○ 私の時間 #スモールサクセス #トライ&エラー #自分らしさ(自己認知・自己開発) #STEAM教育



学びの主体を100%子どもに委ねる時間です。この時間は子どもに「非認知能力」と呼ばれる多様な資質・能力を育むだけでなく、キャリアデザインやウェルビーイングの視点からも有益であることわかってきています。この時間を任せられた子どもは、自分のやりたいこと、つまり「何ができるようにするか」という「なりたい自分」をもとに自分の学びを設計してデザインし始めます。自分ができるようになりたいことに対して、本を読んだり、検索したりして必要な知識や技能をインプットして挑戦している子どもは、スモールステップ・スモールサクセスを繰り返し続けていきます。 写真：1年間かけて割り箸で銀閣をつくることに挑戦！卒業式までに見事完成！

○ 城山LIVE!・城山フェス #子どもや大人のアウトプット交流 #追求の種まき #子どもが創り手



「城山LIVE!」は、子ども、あるいは地域の方、企業や団体の発信や交流の場です。決まっているのは20分間という時間だけです。これまで41回のLIVEが行われました。子どもが企画して自分の学びを表現する楽しさを感じることや、新しい価値観をもたらす「ひと・もの・こと」との出会いが、子どもへの新たな追求の種まきになると考えています。「城山フェス」は、活性化してきた子どもたちの多様なアウトプットを全校で味わい、分かち合う場です。フェスの場をどのように創り、どのように立場で参加するのかを決めるのも子ども自身です。 写真：有志による「つくリーダー」が企画した第1回「城山フェス」オープニング

○ 集い #異年齢ファシリテーション #他者理解力 #子どもの声を聴く #対話



訓辞のような全校集会ではなく、フィッシュボール型で良い対話を深めつつ、その内容を参加者全員で共有するための「集い」を行っています。テーマに対して、ファシリテーターと代表児童が意見交換し合う姿から、周囲の子どもたちは感じたことを異年齢で語り合います。「楽しい学校ってどんな学校?」「本を読む楽しさって何?」というように、学年の枠を超えて同じ議題で話し合っ

写真：ファシリテーターとゲスト児童の対話に耳を傾ける

○ 安心・安全な学校、子どもの多様性を考慮した学習環境づくり #学校を支える基盤



子どもまん中目線で学習環境を見つめ直し、佐久市教育委員会、佐久児童相談所、佐久市子育て支援課、スクールカウンセラーと連携しながら整備していきます。本年度はさらさら

写真：ふるさと学習 2年生菜の花畑遠足での交流

多様な学びの場を生み出す教育課程

Table with columns for time (時刻), days (月, 火, 水, 木, 金), and activities (e.g., 児童登校, 1校時, 2校時, 3校時, 業間休み(城山LIVE!), 給食・昼休み, 学校裁量(教科学習・私の時間・集い), 6校時, 帰りの会).

【1単位時間40分授業午前5時間制の実施】

- 令和6年度より、1単位時間を見直して創出された学校裁量の時間(20分)を活用して、一人ひとりの教科の基礎基本の定着のための時間(指導の個別化)や、児童の興味・関心等に応じた学習活動や学習課題に取り組む時間(学習の個性化)に充てています。
・自分を見つめ直し、必要な学習や活動の計画を自分で立てて調整しながら学ぶ力を育てています。
・「私の時間」では子どもの将来や人生を豊かにする資質や能力が育成されます。
・教員の教材準備や研修のための「先生の時間」を確保し、子どもへ質の高い学びの場を提供できるようにしています。
・令和8、9年度は、文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校として、標準時数を調整して、子どもが創り手となる教育活動の時間を生み出していく新しい教育のカタチを研究していきます。